

---

**2010年3月期 決算説明会**

---

**国際石油開発帝石株式会社**

**2010年5月14日**

- 2010年3月期 決算説明
- 2011年3月期 業績予想
- 事業活動報告
- 今後の見通し

当プレゼンテーションは、当社の計画と見通しを反映した、将来予想に関する記述に該当する情報を含んでおります。かかる将来予想に関する情報は、現在入手可能な情報に鑑みてなされた当社の仮定および判断に基づくものであり、これには既知または未知のリスク、不確実性およびその他の要因が内在しております。かかるリスク、不確実性およびその他の要因は、かかる将来予想に関する情報に明示的または黙示的に示される当社の将来における業績、経営結果、財務内容に関してこれらと大幅に異なる結果をもたらす可能性があります。かかるリスク、不確実性およびその他の要因には下記のものが含まれますが、これらに限られるものではありません。

- 原油および天然ガスの価格変動及び需要の変化
- 為替レートの変動
- 探鉱・開発・生産に関連するコストまたはその他の支出の変化

当プレゼンテーションに掲載される情報(将来予想に関する情報を含む)を、その掲載日後において、更新または修正して公表する義務を負うものではありません。

---

**2010年3月期 決算説明**

---

**取締役**

**常務執行役員**

**財務・経理本部 本部長 村山昌博**

# 2010年3月期 決算ハイライト



	09年3月期	10年3月期	増減	増減率
売上高 (億円)	10,761	8,404	△2,357	△21.9%
原油売上高	6,503	4,869	△1,634	△25.1%
天然ガス売上高(LPG含む)	3,982	3,264	△718	△18.0%
その他	275	270	△4	△1.6%
営業利益 (億円)	6,632	4,616	△2,015	△30.4%
経常利益 (億円)	6,161	4,420	△1,741	△28.3%
純利益 (億円)	1,450	1,072	△378	△26.1%
1株当たり純利益 (円)	61,601.60	45,553.56	△16,048.04	△26.1%

期中平均株式数(連結)2010年3月期 2,353,494株

# 原油売上高

	09年3月期	10年3月期	増減	増減率
売上高 (億円)	6,503	4,869	△1,634	△25.1%

販売量 (千bbl)	75,427	76,095	668	0.9%
海外平均単価 (\$/bbl)	82.70	68.40	△14.30	△17.3%
国内平均単価 (¥/kl)	65,829	41,470	△24,359	△37.0%
平均為替 (¥/\$)	103.17	92.66	△10.51	△10.2%

地域別販売量 (千bbl)	09年3月期	10年3月期	増減	増減率
日本	241 (38千kl)	208 (33千kl)	△33 (△5千kl)	△13.7%
アジア・オセアニア	12,958	15,295	2,337	18.0%
ユーラシア(欧州・NIS諸国)	8,664	11,556	2,892	33.4%
中東・アフリカ	52,641	47,293	△5,348	△10.2%
米州	923	1,743	819	88.8%
合計	75,427	76,095	668	0.9%

# 天然ガス売上高(LPG除く)

	09年3月期	10年3月期	増減	増減率
売上高 (億円)	3,824	3,078	△745	△19.5%
販売量 (百万cf)	401,076	416,684	15,609	3.9%
海外生産分平均単価 (\$/千cf)	9.22	7.43	△1.79	△19.4%
国内生産分平均単価 (¥/m <sup>3</sup> )	37.39	38.41	1.02	2.7%
平均為替 (¥/\$)	102.47	92.64	△9.83	△9.6%

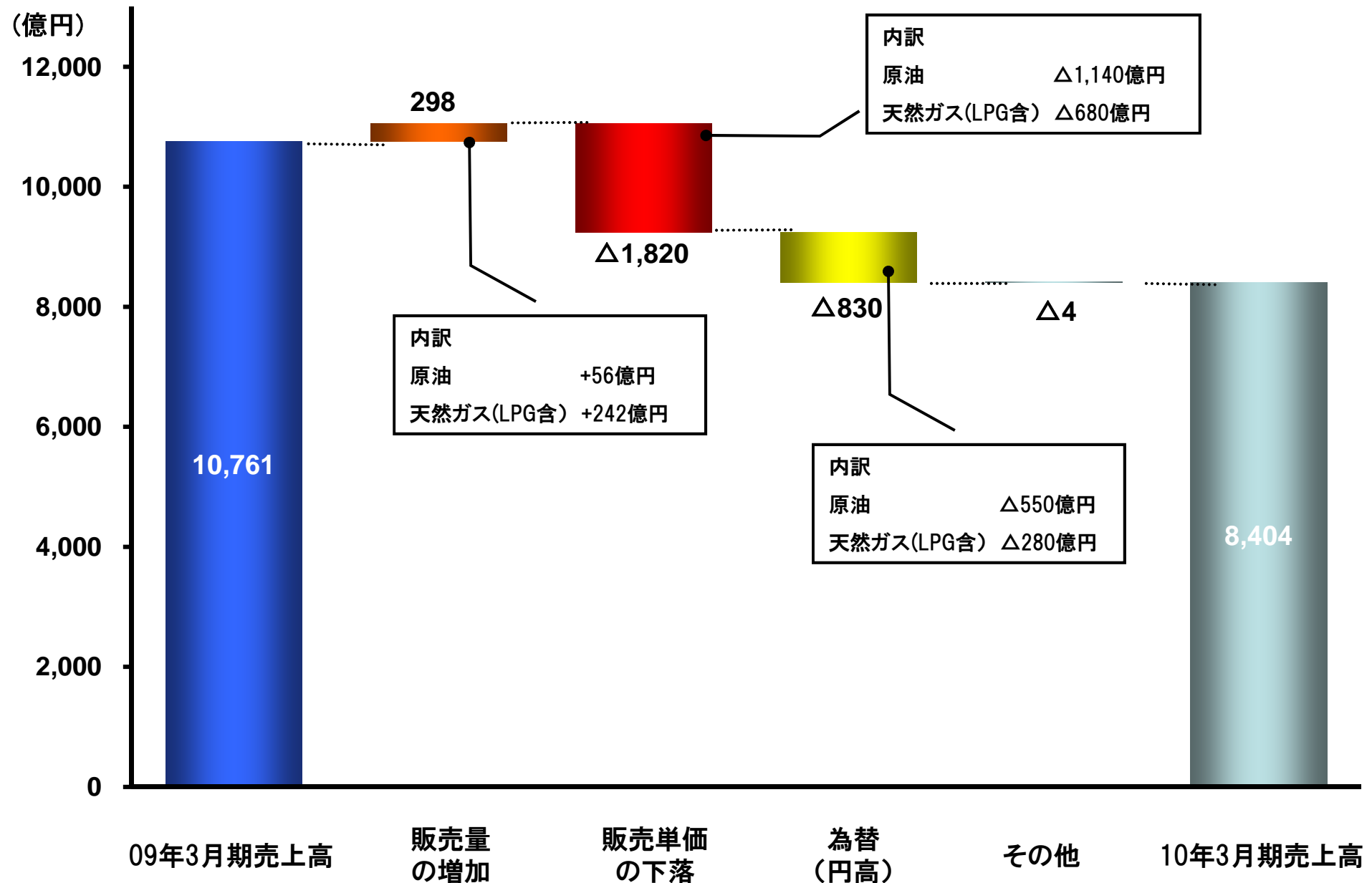
地域別販売量 (百万cf)	09年3月期	10年3月期	増減	増減率
日本	60,629 (1,625百万m <sup>3</sup> )*	61,459 (1,647百万m <sup>3</sup> )*	830 (22)	1.4%
アジア・オセアニア	310,744	324,364	13,620	4.4%
ユーラシア(欧州・NIS諸国)	-	-	-	-
中東・アフリカ	-	-	-	-
米州	29,703	30,861	1,159	3.9%
合計	401,076	416,684	15,609	3.9%

\*1m<sup>3</sup>当たり43.12MJ

※ なお、LPGの売上高は以下の通り。

	09年3月期	10年3月期	増減	増減率
売上高 (億円)	158	185	26	16.8%

# 2010年3月期 売上高 増減要因分析





# 損益計算書

(億円)	09年3月期	10年3月期	増減	増減率
売上高	10,761	8,404	△2,357	△21.9%
売上原価	3,190	2,981	△208	△6.5%
探鉱費	259	157	△102	△39.5%
販売費及び一般管理費	678	648	△29	△4.4%
営業利益	6,632	4,616	△2,015	△30.4%
営業外収益	320	214	△105	△33.0%
営業外費用	791	411	△380	△48.0%
経常利益	6,161	4,420	△1,741	△28.3%
法人税等	4,882	3,229	△1,652	△33.8%
法人税等調整額	△178	21	200	△111.9%
少数株主利益	7	96	89	-
純利益	1,450	1,072	△378	△26.1%

原油売上:	4,869
(増減)	△1,634
天然ガス売上(注):	3,264
(増減)	△718

原油売上原価:	1,808
(増減)	△398
天然ガス売上原価(注):	986
(増減)	+177

主な要因  
イクシス及びその周辺鉱区の探鉱費減少等

注) LPGを含む。

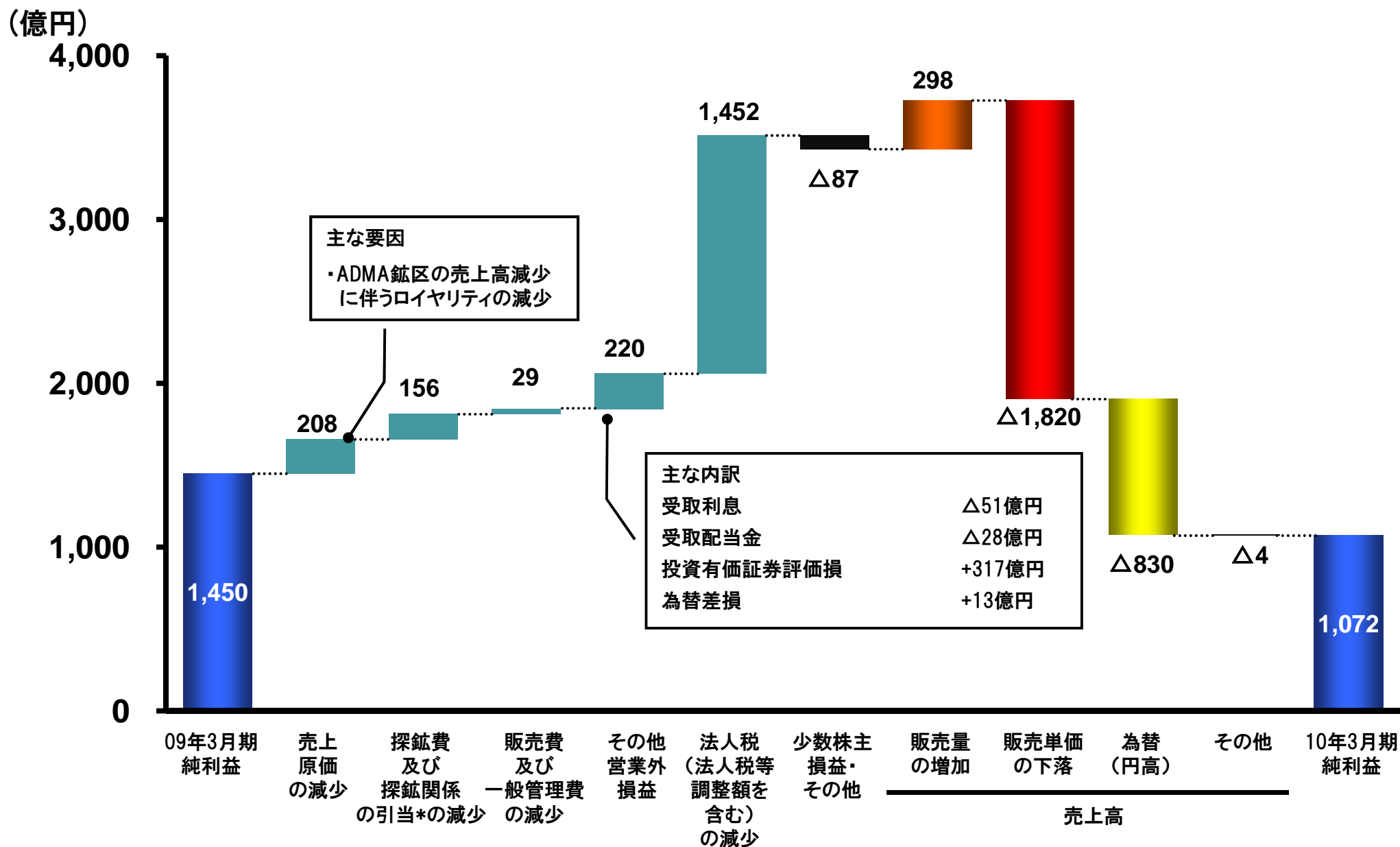
# 営業外収益・費用

**INPEX**

(億円)	09年3月期	10年3月期	増減	増減率
<b>営業外収益</b>	320	214	△105	△33.0%
受取利息	95	43	△51	△54.3%
受取配当金	123	94	△28	△23.2%
持分法による投資利益	9	-	△9	△100.0%
その他	92	76	△15	△17.0%
<b>営業外費用</b>	791	411	△380	△48.0%
支払利息	39	12	△26	△67.6%
生産物回収勘定引当金繰入額	166	60	△106	△63.8%
探鉱事業引当金繰入額	33	85	52	153.8%
投資有価証券評価損	317	-	△317	△100.0%
為替差損	145	132	△13	△9.0%
持分法による投資損失	-	19	19	-
その他	88	100	12	13.8%

主にアバディの探鉱投資の減少

# 2010年3月期 純利益 増減要因分析



\*生産物回収勘定引当金繰入額及び探鉱事業引当金繰入額

# 貸借対照表

(億円)	09年3月期末	10年3月期末	増減	増減率
流動資産	4,111	4,928	817	19.9%
有形固定資産	2,976	3,580	604	20.3%
無形固定資産	2,536	2,392	△144	△5.7%
生産物回収勘定	4,539	5,146	607	13.4%
その他	4,395	5,038	643	14.6%
生産物回収勘定引当金	△878	△948	△70	8.0%
<b>資産合計</b>	<b>17,680</b>	<b>20,137</b>	<b>2,457</b>	<b>13.9%</b>
流動負債	2,060	2,279	218	10.6%
固定負債	1,999	2,952	953	47.7%
純資産	13,620	14,906	1,285	9.4%
(うち少数株主持分)	909	1,031	121	13.4%
<b>負債・純資産合計</b>	<b>17,680</b>	<b>20,137</b>	<b>2,457</b>	<b>13.9%</b>
1株当たり純資産 (円)	540,100	589,549	49,449	9.2%

直江津LNG受入基地、イクシス等への投資

カシャガン油田等への投資

インペックス北カスピ海石油の長期借入金の増加等

# キャッシュフロー

(億円)	09年3月期	10年3月期	増減	増減率
税金等調整前当期純利益	6,161	4,420	△1,741	△28.3%
減価償却費	429	403	△26	△6.1%
生産物回収勘定(資本支出)の回収額	457	456	△0	△0.2%
生産物回収勘定(非資本支出)の増加額	△270	△149	120	△44.5%
法人税等の支払額	△5,307	△3,051	2,255	△42.5%
その他	833	335	△497	△59.7%
<b>営業活動によるキャッシュフロー</b>	<b>2,303</b>	<b>2,413</b>	<b>110</b>	<b>4.8%</b>
有形固定資産の取得による支出	△886	△875	10	△1.2%
有価証券・投資有価証券の取得による支出・売却による収入(ネット)	△285	△549	△263	92.4%
生産物回収勘定(資本支出)の支出	△1,082	△916	166	△15.4%
その他	△147	△176	△29	20.2%
<b>投資活動によるキャッシュフロー</b>	<b>△2,401</b>	<b>△2,518</b>	<b>△116</b>	<b>4.8%</b>
<b>財務活動によるキャッシュフロー</b>	<b>△460</b>	<b>689</b>	<b>1,150</b>	<b>△249.6%</b>
現金及び現金同等物の期末残高	1,628	2,163	535	32.9%

# 財務指標

**INPEX**

## 純有利子負債／使用総資本(ネット)\*

2009年3月期

(31.2%)

2010年3月期

(30.6%)

## 自己資本比率\*\*

71.9%

68.9%

2009年3月期

2010年3月期

## D/Eレシオ\*\*\*

12.9%

17.3%

2009年3月期

2010年3月期

\* 純有利子負債／使用総資本(ネット) = (有利子負債－現金及び預金－国債・地方債・社債等(時価のあるもの)－MMF・現先・譲渡性預金)／(純資産＋有利子負債－現金及び預金－国債・地方債・社債等(時価のあるもの)－MMF・現先・譲渡性預金)

\*\* 自己資本比率 = (純資産－少数株主持分)／総資産

\*\*\* D/Eレシオ = 有利子負債残高／(純資産－少数株主持分)

---

**2011年3月期 業績予想**

---

**取締役**

**常務執行役員**

**財務・経理本部 本部長 村山昌博**

# 2011年3月期 連結業績予想



前提	上期	下期	通期
Brent 油価(\$/bbl)	77.5	77.5	77.5
為替レート(円/US\$)	90.0	90.0	90.0

通期	2010年3月期(実績)	2011年3月期(予想)	増減	増減率
売上高 (億円)	8,404	8,630	226	2.7%
営業利益 (億円)	4,616	4,510	△106	△2.3%
経常利益 (億円)	4,420	4,330	△90	△2.0%
純利益 (億円)	1,072	1,020	△52	△4.9%

## 第2四半期累計

売上高 (億円)	3,926	4,280	354	9.0%
営業利益 (億円)	2,022	2,190	168	8.3%
経常利益 (億円)	1,933	2,130	197	10.2%
純利益 (億円)	476	480	4	0.7%

1株当たり配当金 (円)	第2四半期末	2,500	3,000
	期末	3,000	3,000
	年間	5,500	6,000



# 2011年3月期 販売量・投資額(予想)



		2010年3月期(実績)	2011年3月期(予想)	増減	増減率
販売量	原油 (千バレル) <sup>1</sup>	76,095	74,374	△1,721	△2.3%
	天然ガス (百万cf) <sup>2</sup>	416,684	397,743	△18,941	△4.5%
	うち海外分	355,225	335,550	△19,675	△5.5%
	うち国内分	61,459 (1,647百万m <sup>3</sup> )	62,193 (1,666百万m <sup>3</sup> )	734 (19百万m <sup>3</sup> )	1.2%
	LPG (千バレル) <sup>3</sup>	3,377	2,627	△750	△22.2%

	2010年3月期(実績)	2011年3月期(予想)	増減	増減率
開発投資額 (億円)	2,020	2,340	320	15.8%
その他設備投資額 (億円)	465	210	△255	△54.8%
探鉱投資額 <sup>4</sup> (億円)	336	560	224	66.7%
探鉱費および 探鉱関連引当額 <sup>5</sup> (億円)	357	473	116	32.5%
うち少数持分負担額 <sup>6</sup> (億円)	48	155	107	222.9%

- 注) 1 国内原油および石油製品販売量の換算係数として1kl=6.29バレルを使用  
 2 国内天然ガス販売量の換算係数として1m<sup>3</sup>=37.32cfを使用  
 3 国内LPG販売量の換算係数として1トン=10.5バレルを使用  
 4 権益取得費を含む  
 5 損益計算書の生産物回収勘定引当金繰入額+探鉱事業引当金繰入額+探鉱投資引当金繰入額を記載  
 6 少数株主による出資見合い分

# 原油価格・為替レートのセンシティブリティ **INPEX**

## ■ 油価・為替変動の2011年3月期当期純利益に与える影響額(試算)

油価1ドル 上昇(下落)した場合	+21億円(△21億円)
為替(円/US\$)1円 円安(円高)になった場合	+22億円(△22億円)

(注) 原油価格(Brent)を1ドル変動させた場合、為替を1円変動させた場合の2011年3月期の当期純利益に対する影響額をそれぞれ試算したものです。

影響額は、生産量、投資額、コスト回収額などの変動により変わる可能性があり、また、油価及び為替の水準により、常に同じ影響額になるとは限らない点にご留意ください。

---

# 事業活動報告

---

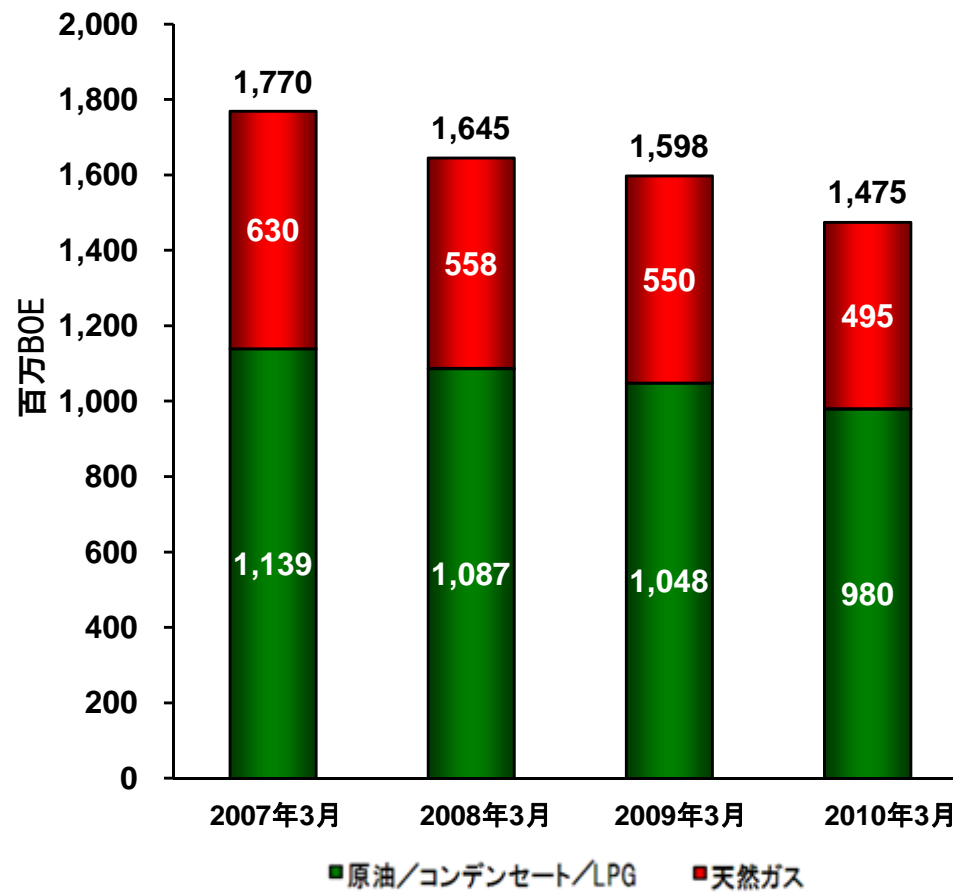
代表取締役社長  
黒田直樹

- 油価は2008年下期からの低迷から徐々に回復しているが、期中平均では18%下落、為替も10%円高といった経営環境の中、純利益は26%減益
- 確認+推定埋蔵量は、期中生産分と適用油価の上昇により約8%減少
- フラージ、ヴァンゴッホ、タングー等新規油・ガス田の生産開始があったものの、OPECの生産削減等により、ネット生産量は前期比横ばい
- 新規探鉱プロジェクトや開発スタディ案件を取得（ブラジル、ベネズエラ）
- 成長ドライバーであるイクシス、アバディの開発準備作業、カシャガンの開発作業を着実に推進中
- ガスサプライチェーン構築に向けた進捗（直江津LNG受入基地、新青海ライン）
- 新エネルギー、再生可能エネルギー開発への布石（エリーパワー(株)、DBマスタードール）

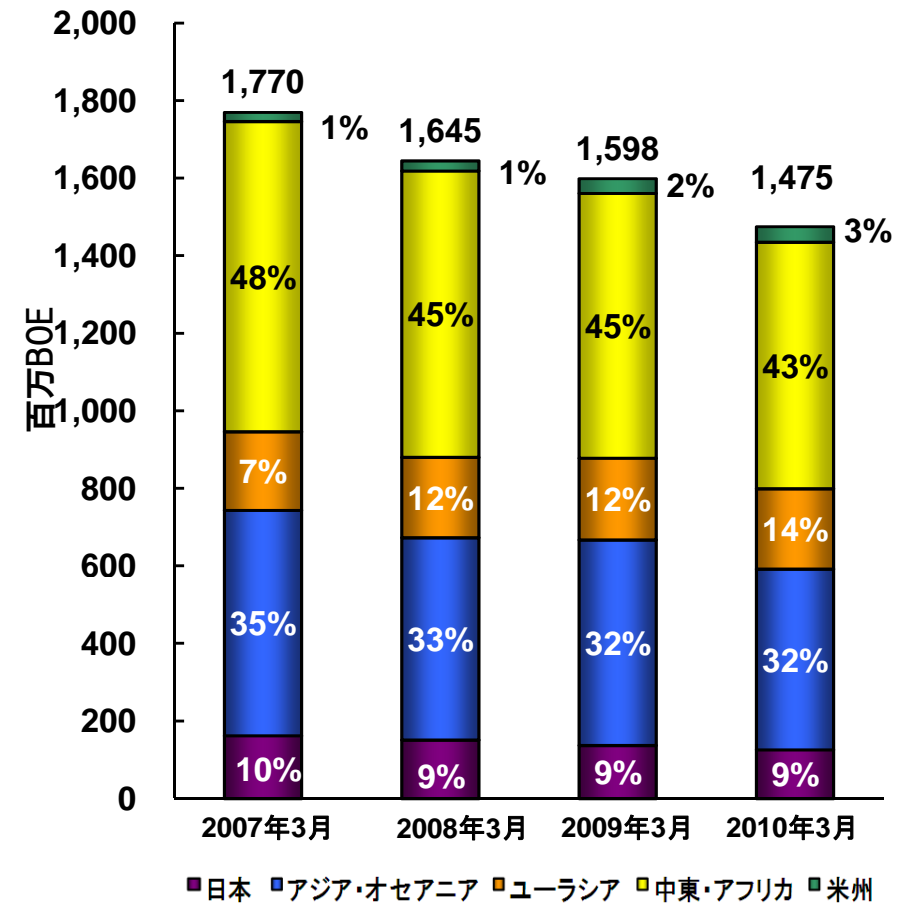
# 確認埋蔵量\*



## 製品別

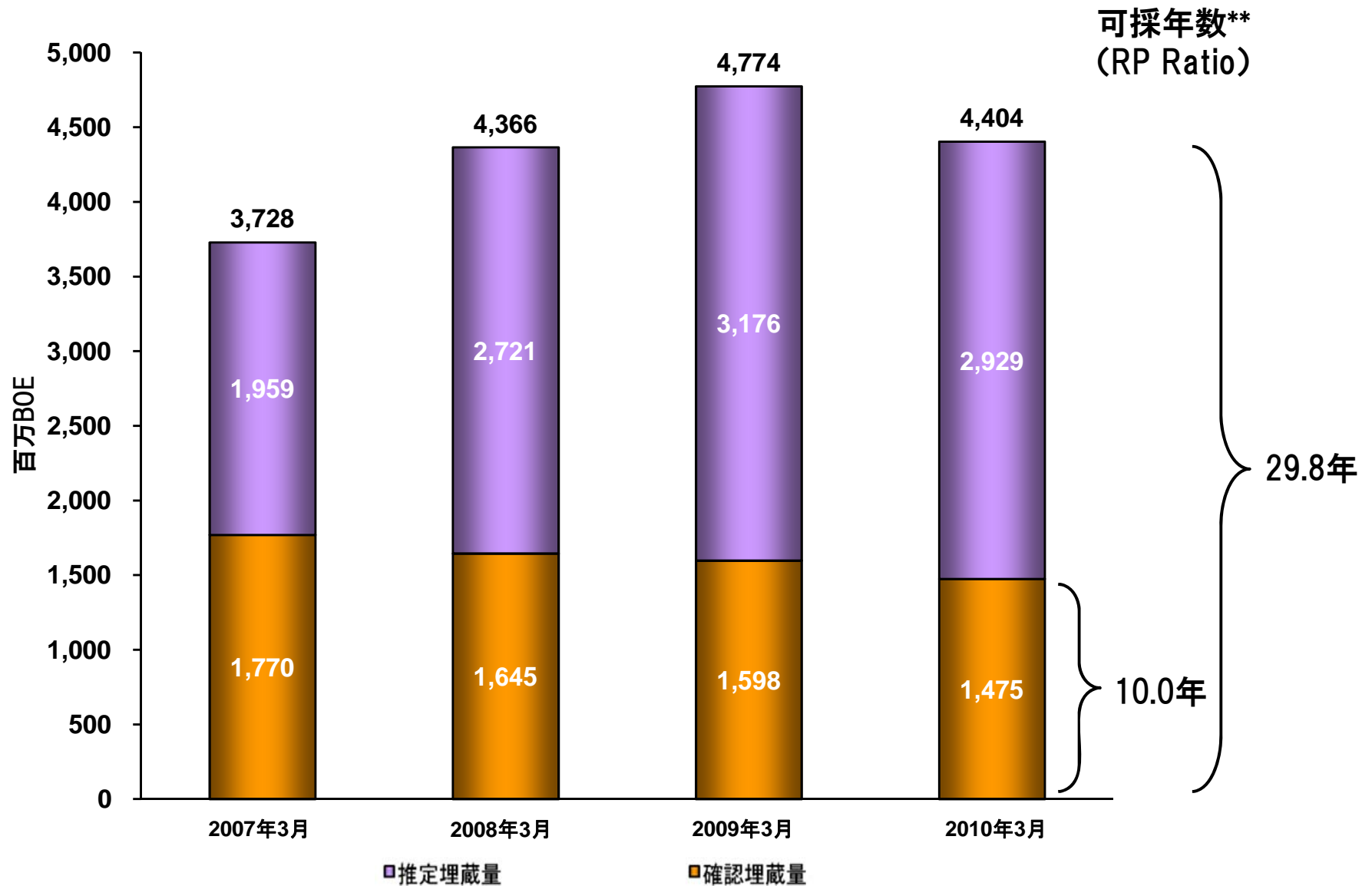


## 地域別



\* 確認埋蔵量はDeGolyer&MacNaughton社の埋蔵量評価鑑定書(暫定版)に基づく米国証券取引委員会(SEC) 規則に従った数値。DeGolyer & MacNaughton社の評価対象外の埋蔵量は含まない。持分法適用会社の持分を含む。

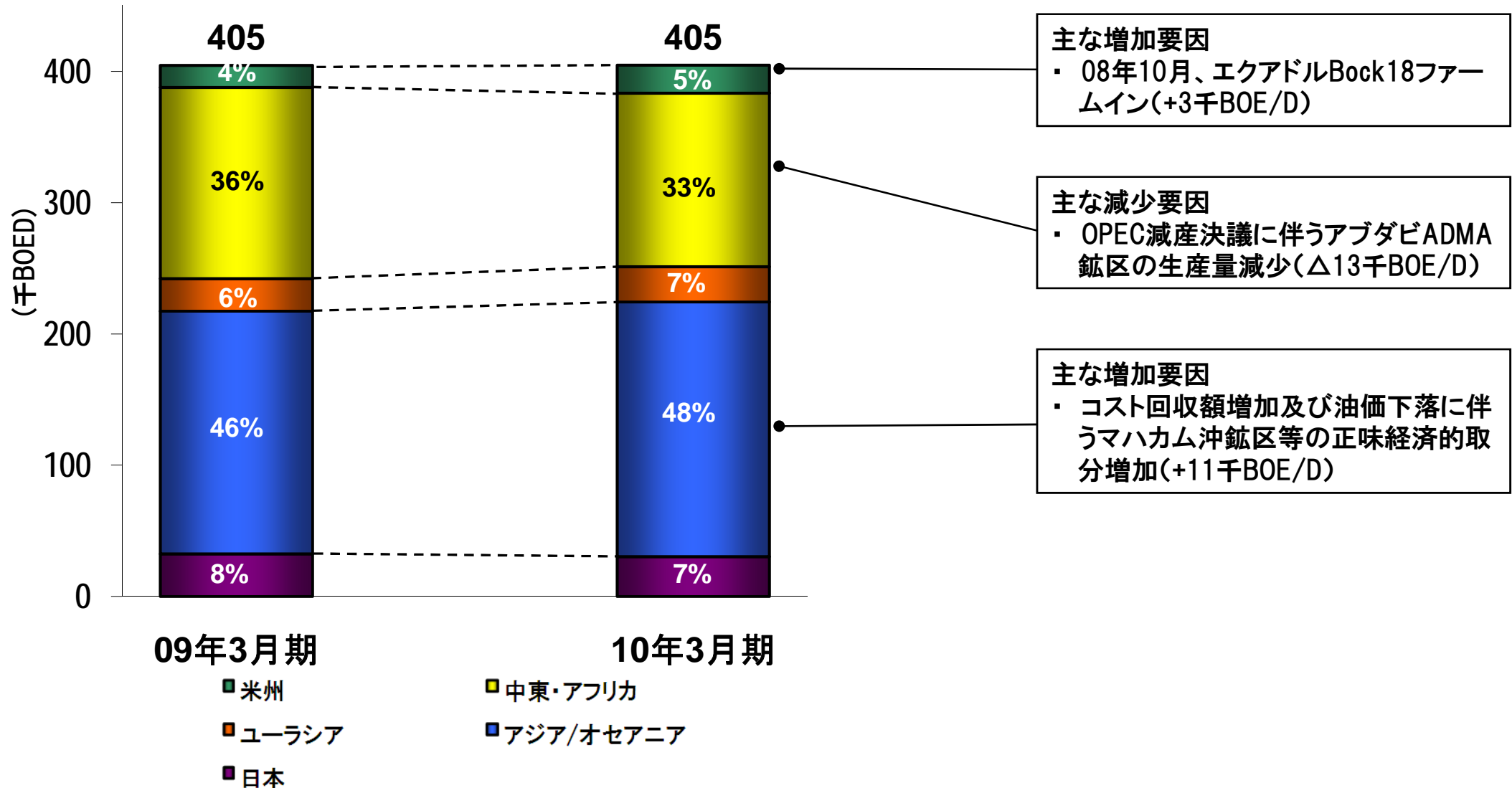
# 確認+推定埋蔵量\*の推移



\* 確認埋蔵量はDeGolyer&MacNaughton社の埋蔵量評価鑑定書(暫定版)に基づく米国証券取引委員会(SEC) 規則に従った数値。持分法適用会社の持分を含む。推定埋蔵量はDeGolyer&MacNaughton社の埋蔵量評価鑑定書(暫定版)に基づくSPE(米国石油技術者協会)/WPC(世界石油会議)/AAPG(米国石油地質技術者協会)/SPEE(石油評価技術協会)の2007年3月に承認されたSPE-PRMSIに従った数値。DeGolyer&MacNaughton社評価対象外の埋蔵量を含まない。持分法適用会社の持分を含む。

21 \*\* 可採年数=2010年3月末「確認埋蔵量」または「確認埋蔵量+推定埋蔵量」/2010年3月期生産量実績 (RP Ratio: Reserve Production Ratio)

# 2010年3月期 ネット生産量\*

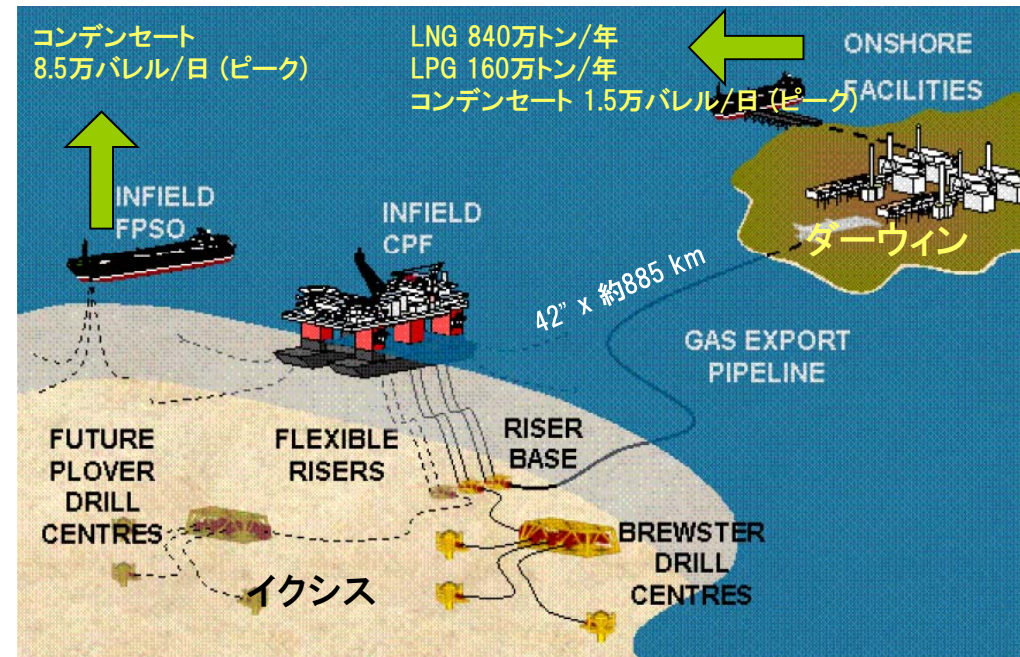


\* 当社グループが締結している生産分与契約にかかる当社グループの原油及び天然ガスの生産量は、正味経済的取分に相当する数値を示しています。

# イクシスプロジェクト

INPEX

- 陸上(ガス液化プラント)及び海上(沖合生産施設及びパイプライン)基本設計作業(FEED)実施中
- 生産ライセンスの取得手続き開始
  - ✓ 2010年3月、暫定鉱区開発計画書(PFDP)を政府に提出
- 環境審査関係
  - ✓ 2010年4月、環境影響評価報告書(EIS)ドラフトを連邦政府及び北部準州政府へ提出
  - ✓ 2010年5月7日、EISドラフトパブリックレビュー開始に関する連邦環境大臣承認取得
- ガスマーケティング活動
  - ✓ 主に日本バイヤーへの販売を検討中
  - ✓ LNG長期販売契約に関する合意を出来るだけ早期に得るべく、交渉継続中



開発コンセプトの概要

生産量(予定):

LNG年間840万トン

LPG年間160万トン

コンデンセート日量約10万  
バレル(ピーク時)

最終投資決定(FID)予定: 2011年4Q

生産開始予定: 2016年4Q



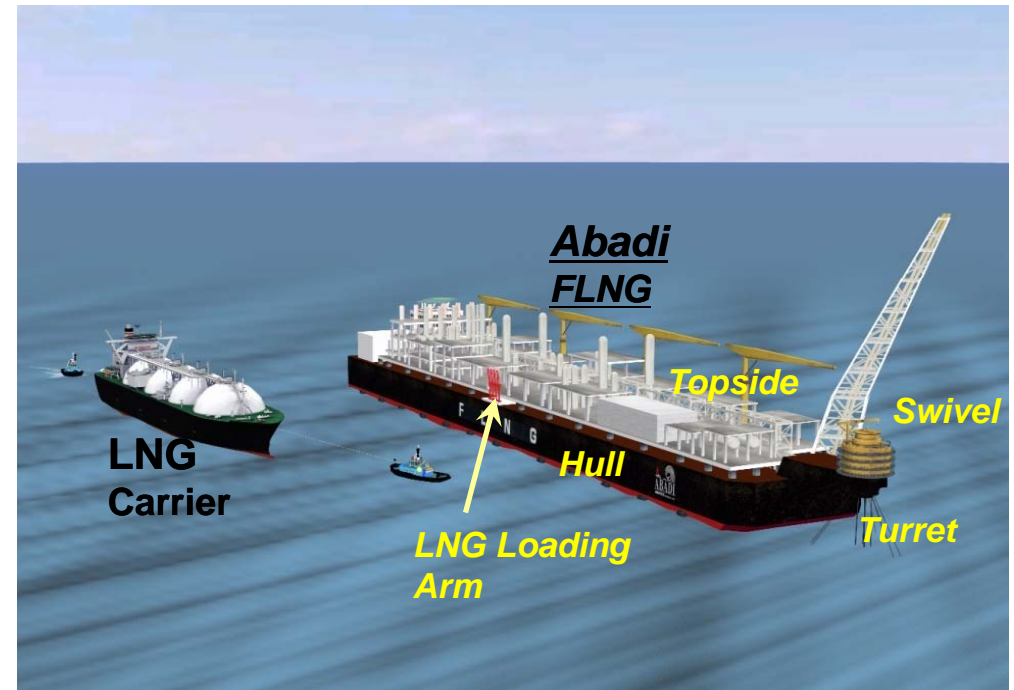
# アバディプロジェクト

INPEX

- 開発計画(POD)についてインドネシア政府より基本承認を取得
- 基本設計作業(FEED)の実施準備中
- 環境社会影響調査(AMDAL)の手続きを開始
- インドネシア企業1社(PT EMP Energi Indonesia社)に対し参加権益10%を譲渡\*

\*2009年11月に10%の権益譲渡契約を締結済。先行条件の充足により発効予定。

- インドネシア政府は、開発計画に関する第三者評価を実施



## 基本承認された開発計画における開発コンセプト\*\*

- Floating LNGによる開発方式
- 埋蔵量の多い北部を中心に初期開発
- LNGは年間450万トンの生産
- コンデンセートは日量13,000バレル
- 生産開始目標 : 2016年

\*\*第三者評価の進捗等により開発計画について調整の可能性有

# 国内天然ガス事業

INPEX

(2010年3月20日撮影)

## ■ 天然ガス販売の状況\* \* 1m<sup>3</sup>当たり41,6805MJ換算

- 2010年3月期: 静岡ガス向けの減少(前期比約90百万m<sup>3</sup>減)を上回る直売工業用等の販売増により、17.1億m<sup>3</sup>(前期比+1%)
- 2011年3月期(見通し): 静岡ガス向けの減少(通年)を新青海ラインの通年稼働、新規直売工業用の供給開始等により補い、17.3億m<sup>3</sup>(前期比+1%)



- 静岡ガスからのLNG気化ガス導入の通年化により約4億m<sup>3</sup>の買入ガス増加を見込む一方、新価格体系の導入に伴い平均単価は大幅な上昇へ

## ■ ガスサプライチェーンの構築に向けて

- 直江津LNG受入基地(2014年稼働開始予定)は、全用地の引き渡しを受け、今後タンカーバース及び幹線パイプラインとの接続ラインの建設を開始する予定

---

## 今後の見通し

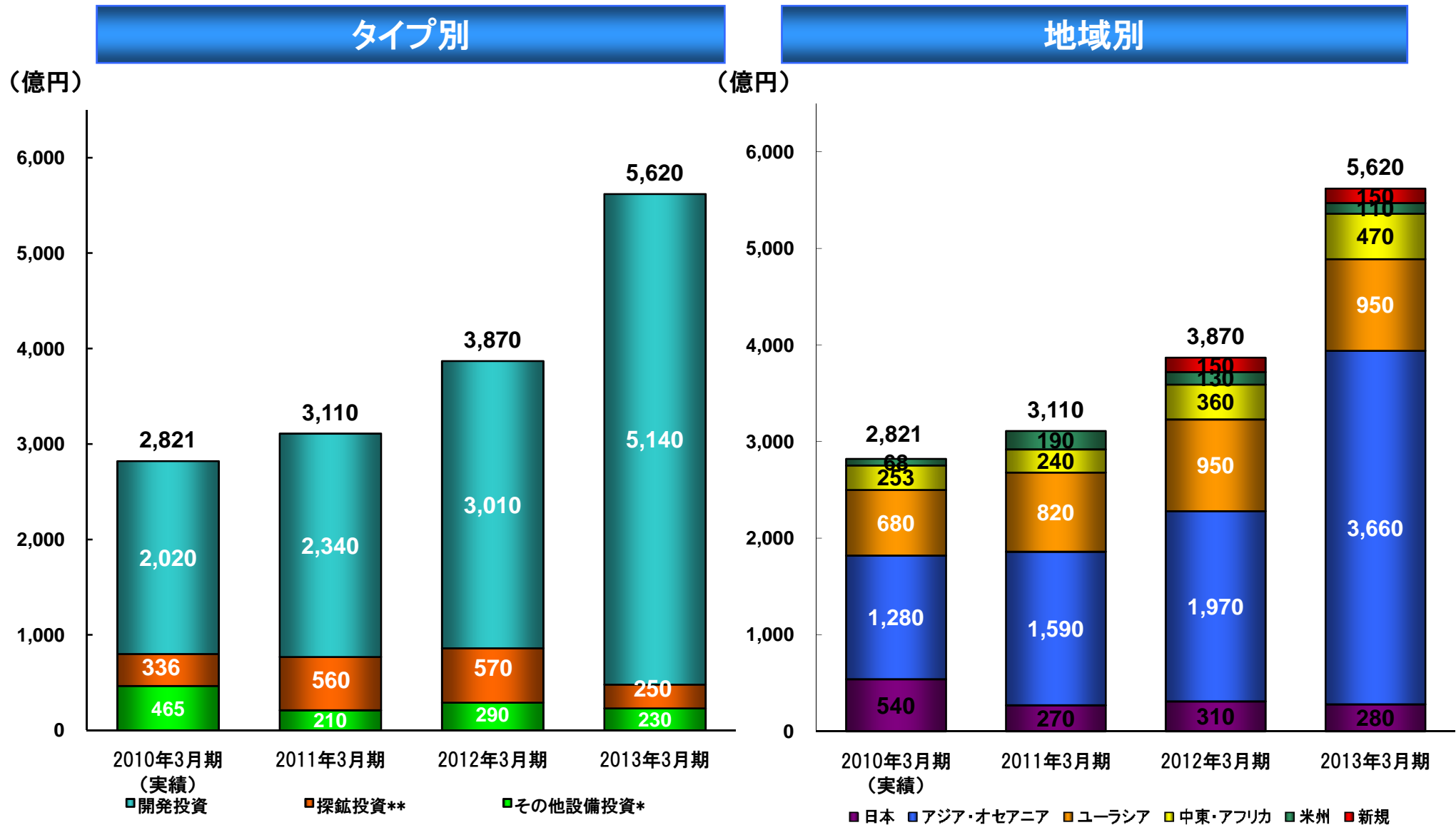
---

代表取締役社長  
黒田直樹

# 投資計画



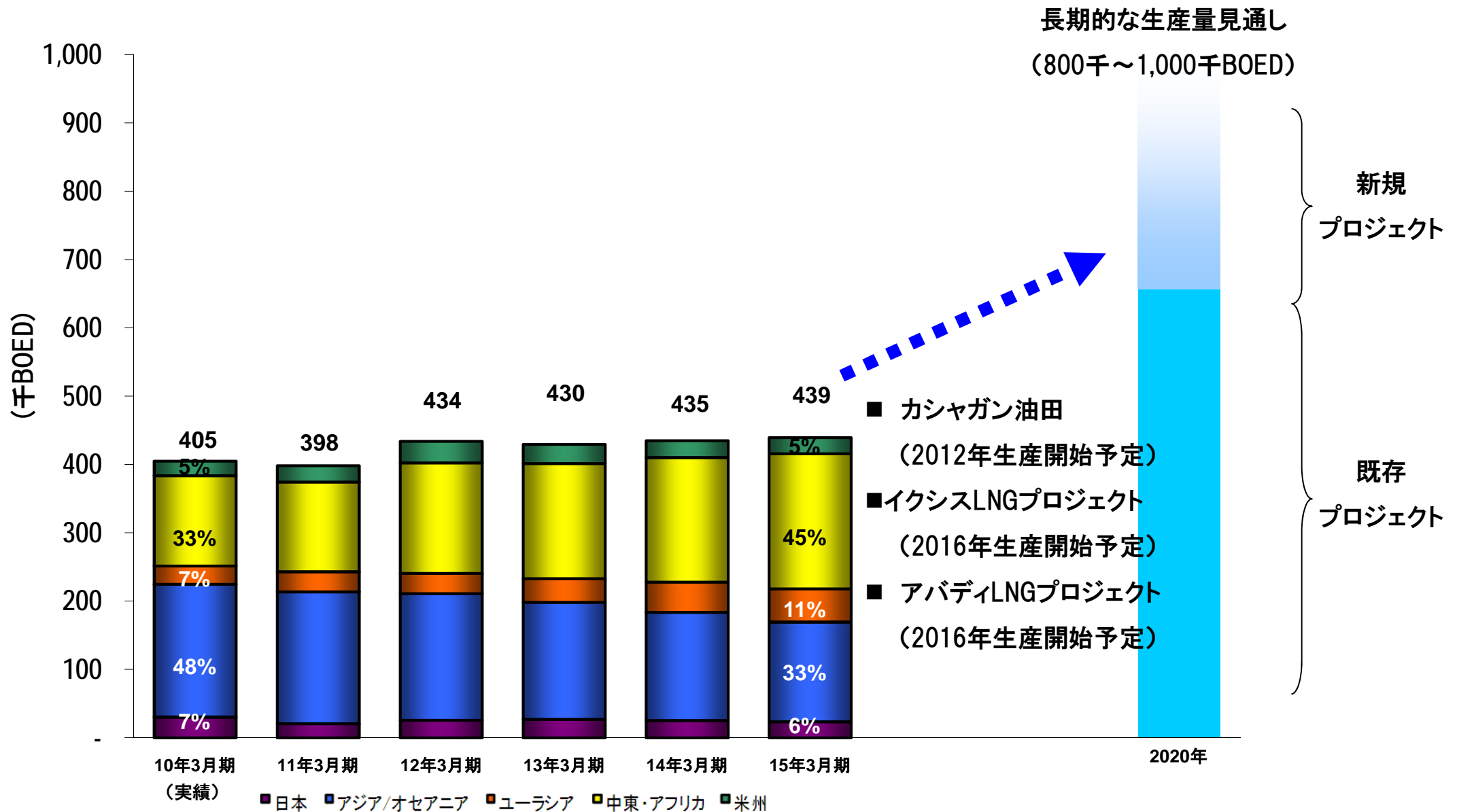
2011年3月期～2017年3月期の7年間に総額4兆円程度の開発投資等を想定



\* 主に直江津LNG受入基地、国内パイプライン関連施設等への投資。

\*\* 権益取得費を含む。

# ネット生産量長期予測



注) 油価は77.5ドルフラットを前提にネット生産量を試算。

\* 当社グループが締結している生産分与契約にかかる当社グループの原油及び天然ガスの生産量は、正味経済的取分に相当する数値を示しています。